

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電 話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <http://zensuiren.org/>
お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp
編集・発行 椿本和幸



高知県四万十川 (国土交通省四国地方整備局提供)

● 目 次

河川愛護月間をかえりみて	1
平成29年度「森と湖に親しむ旬間」実施状況	2
「海岸愛護月間」について	5
中国地方治水大会の開催について(ご案内)	6
九州地方治水大会の開催について(ご案内)	8
中部地方治水大会のご案内	11
東北地方治水大会のご案内	13

河川愛護月間をかえりみて

国土交通省 水管理・国土保全局 治水課

国土交通省では、昭和49年から毎年7月を「河川愛護月間」と定め、河川愛護運動を実施しています。

本年度においても、「せせらぎに ぼくも魚も すきとおる」を推進標語として、各地方整備局、都道府県、市町村が主体となり、全国各地でポスター、チラシ等による広報活動をはじめ、河川のクリーン作戦、水生生物調査等、多様な活動が、地域住民、河川愛護団体、関係行政機関等の協力を得て実施され、多数の方々の参加をいただきました。

月間中に行われた行事等の成果を踏まえて、今後とも、地域住民、市民団体等と協力した流域全体の良好な河川環境の保全・再生への取り組みを積極的に推進するとともに、年間を通して、国民の河川愛護意識の醸成に努めてまいりたいと考えております。

また、これらの活動に加え、河川愛護月間推進特別事業として、「川遊び～川での思い出・川への思い」をテーマに絵と文章を組み合わせて描いた絵手紙の募集を9月29日まで行っており、関係機関誌等を通じ、引き続き広く募集活動を行っております。

募集についての詳細は、国土交通省水管理・国土保全局ホームページ中『河川愛護月間』(<http://www.mlit.go.jp/river/aigo/index.html>)に掲載しております。



川下り体験



河川一斉清掃



水生生物調査



水難事故防止講習

平成29年度「森と湖に親しむ旬間」実施状況

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

農林水産省、国土交通省、独立行政法人水資源機構、都道府県、市町村は、人々に森や湖に親しむ機会を提供することにより、心身をリフレッシュし、明日への活力を養っていただくとともに、そうした機会を通して森林やダム湖のもっている自然豊かな空間や社会生活に果たしている役割などを理解していただくことを目的として、毎年7月21日から31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。

本年度も、全国各地のダムやその周辺の森林を会場として、ダム見学会、水辺や森林などの自然とふれあい親しむ教室、森や湖について理解を深めることができるレクリエーション等の行事が開催され、多くの方の来訪がありました。

この中のいくつかのダムにおける、イベントの実施状況を紹介します

○ 豊平峡ダム「豊平峡ダム見学デー」

「豊平峡ダム見学デー」では、普段は一般開放をしていない管理用通路を通り、大迫力の放流を間近で体感することができる見学会を開催しました。参加者からは「観光放流を間近で見て、すごい迫力で感動しました」、「実際に現地を見てすごく興味がわいて、ダムの役割や仕組みをもっと知りたくなりました」、「このような機会があることを周りの人にも教えてあげたいと思いました」などの感想をいただきました。



ダムの施設見学



観光放流の見学

○ 浅瀬石川ダム「浅瀬石川ダム ダム湖ふれあいデー」

「浅瀬石川ダム ダム湖ふれあいデー」では、ダムの役割や構造を理解していただく事を目的にダム提体見学ツアーや虹の湖巡視体験、パネル展等を行いました。また、ダム湖に隣接した虹の湖公園では、市によるステージイベントやさかなのつかみ取り等のイベントが行われ、約3,200人もの方々が来場し、浅瀬石川ダムと虹の湖を満喫していただきました。



ダム湖巡視体験



流木工作

○ ^{ひよし}日吉ダム「ひよし夏祭り」

「ひよし夏祭り」では、ダム堤体内を見学する探検ツアーを行いました。普段は見学できない場所とあって、定員を上回る事前応募の中、75名の方々が参加され、夏の思い出の一つになったようでした。ダム下流広場では、観光協会による子供魚つかみ大会や屋台、日が落ちてからは、日吉ダムを背景に花火が打ち上げられ、約4,000人もの方々が来場し、ひよし夏まつり会場は大盛況でした。



魚つかみ大会



ダム施設見学

○ ^{とまた}苦田ダム「鏡野町大納涼祭2017」

「鏡野町大納涼祭2017」では、ダムの巡視船による奥津湖巡視体験及び降雨体験機による豪雨体験や、町による5,000発以上の大花火大会、地場産グルメが味わえる大物産展、地元NPOによるカヌー体験、ステージイベントやビンゴ大会が行われました。約43,000人もの方々が岡山県内外から来場され、ダムを身近に感じる1日を過ごしていただきました。



大花火大会



降雨体験機による豪雨体験

○ ^{いしてがわ}石手川ダム「自然と遊ぼうDAY!」

「自然と遊ぼうDAY!」では、昆虫や水生生物の観察、親子で簡単に製作できる木工教室、川や海で溺れた時の対処法など数々のイベントを通じて、川で遊ぶ面白さや危険性を学んでもらいました。総数90名の親子連れが参加され、石手川ダム周辺の豊かな自然とふれあい、楽しい時間を過ごしていただきました。



水生生物の観察



手作り吸虫管で昆虫採取



ダム施設見学

○ たいほ大保ダム「第8回大保ダムまつり」

「第8回大保ダムまつり」では、ダムの堤体内や操作室の施設見学、湖面遊覧や学習の川遊びを通してダムと周辺自然を体感していただく見学会を開催しました。夜には近隣の塩屋湾においては、「キャンドルナイトinサーベイ」が行われ、湾を取り囲むように灯されたキャンドルが幻想的な風景を醸し出していました。これらのイベント全体で約2,800人もの方々が来場され、ダムや水源地の魅力を身近に感じる1日を過ごしていただきました。



川遊び

国土交通省では、今後とも農林水産省等の関係機関と連携しながら、全国の各地でこうしたダムと森林の役割を人々に広く理解をしていただくための取り組みを推進・充実するとともに、限られた水資源の有効活用や水源地域活性化の推進を図ってまいります。

「海岸愛護月間」について

7月の「海岸愛護月間」では、「美しく、安全で、いきいきした海岸を目指して」を推進標語として、海岸清掃活動、環境保全・啓発活動、安全・避難訓練、各種イベント等を通じた海岸愛護活動が展開されました。

平成29年度の海岸愛護月間中には、全国各地において海岸協力団体をはじめ多くの方々に海岸清掃に参加いただくとともに、海開きやビーチバレー大会など数多くのイベントが開催されました。さらに、ウミガメなどの海の生き物の環境保全・啓発活動や水難事故防止のための安全教室など、多くの活動が実施されました。

今後とも国土交通省においては、都道府県や市町村等とともに、地域住民、ボランティアの方々の協力を得て、海岸愛護の普及・啓発活動に努めて参ります。



海岸協力団体による海岸清掃（鳥取県米子市）



海の生き物コーナー（静岡県静岡市）



子ども水辺安全教室（宮崎県宮崎市）



石膏を利用したミニチュアブロック作り（静岡県静岡市）



日和佐うみガメまつり（徳島県美波町）



カヌー乗り体験（静岡県静岡市）

中国地方治水大会の開催について(ご案内)

平成29年10月12日(木) 13:00～
 広島市 南区民文化センター
 広島県 土木建築局 道路河川管理課

平成29年度中国地方治水大会の事務局を担当します広島県から、当県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

広島県のすがた

広島県は、本州の西端近くに位置し、北は鳥取県と島根県、東は岡山県、西は山口県と接しています。また、瀬戸内海に面しており、海をはさんで四国と向かい合っています。県の面積は約8,500㎢で全国11番目、人口は約284万人で全国12番目となっています。

気候は、北は中国山地、南は四国山地にはさまれた地形により、夏・冬の季節風の影響を受けにくく、梅雨、台風の時期を除き、一般的に夏の降雨量、冬の降雪量ともに少なく、晴天が多いという瀬戸内海気候地帯です。しかし、沿岸部と山間部では気候に比較的大きな違いがあり、県南部の沿岸部は、年平均気温が約16℃、年平均降水量が約1,300mmであるのに対し、県北部の山間部では、年平均気温約11℃、年平均降水量約2,000mmで、年間降水量が2,500mmに及ぶこともあります。

産業としては、自動車や造船、鉄鋼など製造業がさかんのほか、カキ(牡蠣)やレモンの全国有数の産地となっています。

また、厳島神社と原爆ドームの2つの世界遺産があり、国内外から多くの観光客が訪れています。



世界遺産 厳島神社(廿日市市)と原爆ドーム(広島市)

河川の現況

広島県内には、5,200あまりの河川があり、県の総面積の約6割は、一級水系である太田川、江の川、芦田川の三つの流域に大別されます。

このほか、高梁川、小瀬川の一級水系のほか、比較的小規模な多くの二級水系が瀬戸内海沿岸部及び

島しょ部に分布しています。このうち、中国地方で最大の流域を持つ江の川は、中国山地を貫いて日本海側流れている唯一の河川です。

これらの河川のうち、河川法の適用を受ける河川は一級河川が太田川水系ほか4水系の368河川、流路延長は2,442.6kmで、二級河川は八幡川水系ほか46水系の137河川、流路延長は630.9kmとなっています。

このほか、河川法が準用される準用河川が193河川あり、その流路延長は185.6kmとなっています。



太田川及び派川(広島市)

近年の浸水被害と治水対策

比較的気候の穏やかな広島県ですが、過去には繰り返し大きな水害に見舞われてきました。

終戦直後の昭和20年9月の枕崎台風により、県内全域で甚大な被害が発生したほか、昭和47年7月には県北を中心とした豪雨により、江の川、馬洗川、西城川が氾濫し、三次市の市街地が水没するなどの水害が発生しています。



昭和47年7月豪雨の馬洗川流域の浸水状況(三次市)
 (国土交通省中国地方整備局提供)

また、平成に入ってから、平成16年には8月の台風16号、9月の台風18号と連続して台風の直撃を受け、沿岸部を中心に水害が発生しました。

さらに、昨年の平成28年6月には、梅雨前線の影響により、県東部で、20年に一度の降雨に相当する24時間雨量154mmの豪雨が 발생し、福山市内の瀬戸川流域において、河川の流下能力を超える降雨となったために河川の水位が上昇し、越水・破堤により大規模な浸水被害となりました。



平成28年6月豪雨の瀬戸川流域の浸水状況（福山市）
（国土交通省中国地方整備局提供）



瀬戸川支川の猪之子川の破堤状況（福山市）

広島県では、こうした水害に対し、「ひろしま川づくり実施計画2016」を策定し、その中で5つのチャレンジを施策の柱として取り組んでいます。

この計画では、災害対策だけでなく、総合的な観点で河川事業の計画を策定しており、5つの柱の1つ目としては、「災害の防止・軽減対策の充実・強化」として、事業箇所別の優先度の明確化と創意工夫による早期効果発現、河口部の地震・高潮対策事業の重点化、2つ目は、「自助、共助、公助による地域防災力の向上」として、ソフト対策による災害対応力と地域防災力の向上、防災情報の普及促進や出前講座の実施、洪水浸水想定区域の見直し、堤防の浸透・侵食に係る監視強化、3つ目として、「既存施設の的確

な運用・管理による安心・安全の継続」として、既存施設の的確な運用・管理、堆積土等の定期的な調査、管理基準の設定、別途5カ年の除去に関する計画の策定、ダム放流エネルギーを利用した小水力発電によるダム管理機能の向上、4つ目は、「河川環境の保全と川らしさ復元」として、水辺の魅力復元と多自然川づくり、5つ目は、「水辺空間を利活用した賑わいづくり」として、水辺空間の利活用の促進に、それぞれ取り組んでいるところです。



江の川の河川改修事業（山県郡北広島町）



庄原ダム（庄原市）

中国地方治水大会の開催

さて、10月12日（木）に平成29年度中国地方治水大会を広島市で開催いたします。

この大会では、NHK広島放送局で気象キャスターとして活用されているほか、多くイベント等を通じて防災に関する活動を行っている勝丸恭子様に講演していただくこととしています。

また、三次市、福山市により災害事例や治水事業事例の紹介と併せた意見発表を行っていただきます。

当県には海の幸・山の幸を始め、日本酒や数々の農産物も名産としてたくさんありますので、この機会に是非、ご堪能いただきたいと思います。

皆様のご参加を心からお待ちしております。

九州地方治水大会の開催について(ご案内)

平成29年10月20日(金) 13:30~
宮崎市 ニューウェルシティ宮崎
宮崎県 県土整備部 河川課

平成29年度の九州地方治水大会の事務局を担当します宮崎県から、九州地方治水大会のご案内をさせていただきます。関係各位の多数のご参加をお願いいたします。

宮崎県のすがた

宮崎県は九州の南東部に位置し、北は大分県、西は熊本県、南は鹿児島県、東は太平洋(日向灘)に面しています。県土面積は7,736km²で、九州では2位、全国では14位の広さであり、そのうち森林が75.9%、耕地が8.9%と緑豊かな地勢となっています。海岸線は南北約400kmにおよび、青島をはじめとした白砂青松の海水浴場と、良質な波が打ち寄せる絶好のサーフスポットが数多く存在しています。

平均気温が高く温暖な気候に恵まれ、日照時間、快晴日数は全国でもトップクラスにあるなど、優れた日照条件を有し、太陽の光がふり注ぐ「日本のひなた」宮崎県をPRしています。また、降水量も多く、豊富で良質な水資源にも恵まれています。



天孫降臨の地 高千穂
(国の名勝 天然記念物 真名井の滝)



神話の源流へ 宮崎の神楽



スピリチュアルスポット
あまのやすかわら
神々の神話の舞台 (天安河原)

河川の現況

本県の河川は、その多くが九州南部の脊梁山脈を分水嶺として東流し、日向灘に注いでいます。そのうち、一級河川は大淀川水系ほか4水系239河川、二級河川は一ツ瀬川水系ほか52水系237河川で、合計では、58水系476河川、総延長約2,798kmです。

これらの河川は、山地部でV字型の深い渓谷を、河口付近及び内陸盆地で沖積平野を形成していますが、そこに都市や農地が発達しており、梅雨期、台風期に集中する豪雨のたびに浸水被害が発生しています。

このため、本県では、河川改修に計画的に取り組んでいるところですが、県管理河川の整備率は平成28年度末で約49%と未だに低い状況であることから、県民の安全・安心な暮らしの実現に向けた、災害に強い県土づくりを着実に推進するため、今後とも積極的に河川改修に取り組んでいく必要があります。

近年の浸水被害と取組状況

本県における近年の主な浸水被害は、平成17年9月の台風14号によるものであり、遅い速度で近づく台風が3日間で総雨量1000mm以上の記録的な大雨を降らせ、そのため河川が氾濫するなどして県内全域で約9,200戸の家屋が床上・床下浸水などの被害を受けました。

平成17年9月台風14号による浸水被害



五ヶ瀬川（延岡市北方町）



大淀川（宮崎市高岡町）

これらの浸水被害を受けた箇所における浸水被害の解消を図るため、本県では、現在、広域河川改修事業、総合流域防災事業、土地利用一体型水防災事業など多様な事業に取り組んでいます。

今年度は、平成17年の台風14号で床上・床下浸水被害93戸の甚大な浸水被害を受け、平成22年度から土地利用一体型水防災事業で宅地嵩上げや輪中堤の整備を進めていた大淀川水系大淀川（宮崎市高岡町）の事業が完了予定ですが、今もなお、平成17年の台風被害への対策が完了していない箇所が残っています。

このような中、切迫する南海トラフ地震に備えるための津波対策にも平成26年度から取り組んでおり、事業完了までの期間のさらなる長期化が課題となっています。

このように、ハード対策による防災・減災対策には長い年月を要することから、ソフト対策の充実が社会

的にも年々重要視されてきており、本県ではこれまでに、河川水位や雨量情報及びカメラ画像をインターネットで県民に提供するとともに、出前講座を地区公民館などで開催し、洪水時に身を守るための取組等の紹介などを行ってきています。

そのほか、毎年出水期前までに各出先土木事務所（11事務所）において、各地域の防災情報を関係者で共有するための防災会議と、的確かつ迅速な災害対応がとれるように、建設業協会と合同で防災訓練を実施しているところです。

また、今年度からは、県管理河川においても、大規模氾濫等減災協議会を設置し、「施設では防ぎきれない大洪水は発生するもの」との考えに立ち、社会全体でそれに備えるための「水防災意識社会再構築ビジョン」の取組を始めたところです。



建設業協会との防災訓練



出前講座

宮崎県の魅力

さて、開催地となります宮崎県では、今年6月に、本県と大分県にまたがる「祖母・傾・大崩(おおくえ)地域」が、綾町に続き県内2か所目の「ユネスコエコパーク」に登録されました。「世界遺産」が手つかずの自然を守ることを原則とするのに対し、「ユネスコエコパーク」は自然と人間社会の共存を目指すものです。国内で登録された全9か所のうち、県内に2か所のユネスコエコパークを有するのは本県と群馬、長野の3県のみ、さらにユネスコエコパークと世界農業遺産(平成27年12月に認定)が重なる地域(高千穂町、日之影町)があるのは宮崎県だけとなっています。

本県は、このような豊かな自然と神話伝承などのロマンあふれる文化、四季折々の山の幸・海の幸の宝庫であり、また、野球やサッカー、ラグビーなどのプロ・アマチュアスポーツの合宿・キャンプ地としても高い評価をいただいています。

皆様におかれましては、この機会に、是非、宮崎の美しい自然とその自然が育んだ新鮮な食材を使った料理や焼酎など、お時間の許します限りご堪能いただければと思います。

皆様のお越しを心からお待ちしております。



サーフ天国 みやざき



芸術品とも言われしめる味わいと柔らかさ (宮崎地鶏)



神秘の島 青島



照葉樹林に包まれて 綾町 てるはおつりはし 照葉大吊橋



新生 南国リゾート 青島



日南市飲肥城下町 (重要伝統的建造物群保存地区)

中部地方治水大会のご案内

平成29年10月26日(木) 13:30～
長野県飯田市 飯田文化会館
事務局 長野県建設部 河川課内

平成29年度中部地方治水大会の事務局を担当します長野県から、本県のPRと大会のご案内をさせていただきます。

長野県のすがた

長野県は日本のほぼ中央に位置し、全国で4番目に広い面積を誇ります。また、群馬県、埼玉県、山梨県、静岡県、愛知県、岐阜県、富山県、新潟県と8つの県と接し、日本で最も多くの都道府県と隣接する県でもあります。雄大な自然と歴史に彩られた伝統文化が息づく本県は、北信、中信、東信、南信と大きく4つのエリアに分かれています。

中央部を高地が占める山地型の地形ではなく、北西の県境の飛騨山脈、南東の県境の赤石山脈の標高が高く、間のいくつかの盆地を中心とした地域が形成されています。

長野県は内陸に位置するため、概ね内陸性気候ですが、南北に長く、各都市の標高が異なること、さらに山脈や盆地の形状などにより、同じ県内であっても気候の違いはあるものの、全体的に冬の冷え込みは他の内陸県と比較しても厳しい状況となっています。



信濃川水系犀川（長野市）

河川の現況

長野県には、日本海に注ぐ信濃川、姫川、関川と太平洋に注ぐ天竜川、木曾川、富士川、矢作川、利根川の8水系があり、一級河川は739河川で、総延長が5,112.4kmになります。

河川が多いため、治水事業についても、地形や気

象、水害の発生状況等を考慮し、地域に応じた計画が求められています。



天竜川水系諏訪湖（諏訪市）

近年の浸水被害と治水対策

近年は、毎年のように、これまでに経験したことのないような記録的な豪雨や、局地的な集中豪雨、いわゆる「ゲリラ豪雨」などが県内各地で発生しています。

「平成18年7月豪雨」では、諏訪湖周辺で浸水面積560ha、床上浸水1,058戸、床下浸水1,381戸の大洪水に見舞われました。

被災後、諏訪湖・天竜川の激甚災害対策特別事業及び天竜川・舟渡川河川災害復旧助成事業により、「平成18年7月豪雨」と同規模の洪水に対し、再び洪水被害が生じないよう河川整備を行いました。



諏訪湖周辺の浸水状況（武井田川河口付近）

「平成22年8月豪雨」では、上田市・松本市などで350戸を超える浸水被害が発生しました。上田市を流れる矢出沢川では、市道橋（小舟側道3号橋）の上流部から溢水し、人家や工場に浸水被害が発生しました。次期出水までに再度災害を防止するため、新たに河川改修事業を立ち上げるとともに、「災害対策等緊急事業推進費」を活用して緊急に河道の掘削を実施し河川の水位を下げ、治水安全度の向上を図りました。



写真提供：東信ジャーナル

矢出沢川の浸水状況（上田市）

また、県の北部に位置する長野市、小布施町を流れる浅川は、急峻な上、天井川であったこと等から、古くから水害が頻発しており、近年では、流域の宅地化が急速に進んだことにより想定氾濫区域内の資産が増大し、治水対策が急務となっています。

このことから、流域住民の生命・財産を水害から守るため、治水安全度を1/100と定め、森林整備や遊水地、ため池利用などダムによらない対策も含め、様々な治水対策を住民参加のもとで検討してきました。その結果、「河川改修」と「治水専用ダム」を組み合わせた対策が最適であるという判断に至り、浅川の河川改修事業と併せて浅川ダム建設を進めてきました。

平成28年10月11日（火）から試験湛水を開始し、ダムの安全性を確認した後、平成29年3月17日（金）から浅川ダムの運用を開始しました。



浅川ダム（長野市）

本県では、今後も引き続き、関係者の皆様と連携を図りながら、過去に発生した大規模な浸水被害への対応や市街地での被害防止を目的とした改修事業、河川に関する情報提供の充実等による被害軽減、さらには、河川環境の保全・復元など、ハード・ソフトを組み合わせた治水対策、河川環境整備を推進します。

中部地方治水大会の開催

さて、10月26日（木）に平成29年度中部地方治水大会を飯田市で開催いたします。

本大会では、昭和36年に天竜川で発生した大規模な水害の治水対策事業に大変ご尽力された、元飯田市助役の古井武志様から、当時の体験談を踏まえたご講演をさせていただくことになっております。

開催地の飯田市は、名勝「天龍峡」を始めとした、豊かな自然に恵まれています。また、各地域の「温泉」や、南信州名物の「五平もち」、馬の腸を煮込んだ「おたぐり」など、南信州ならではの郷土料理もごぞいます。御来県の際は、この機会に是非、ご堪能いただければと思います。

多くの皆様のご来場を事務局一同、心よりお待ちしております。

東北地方治水大会のご案内

平成29年10月27日(金) 13:30～
山形市 山形国際ホテル
事務局：山形県県土整備部河川課内

平成29年度東北地方治水大会の事務局を担当します山形県から、本県のPRと大会のご案内をさせていただきます。県内外から多くの皆様のご参加をお待ちしております。

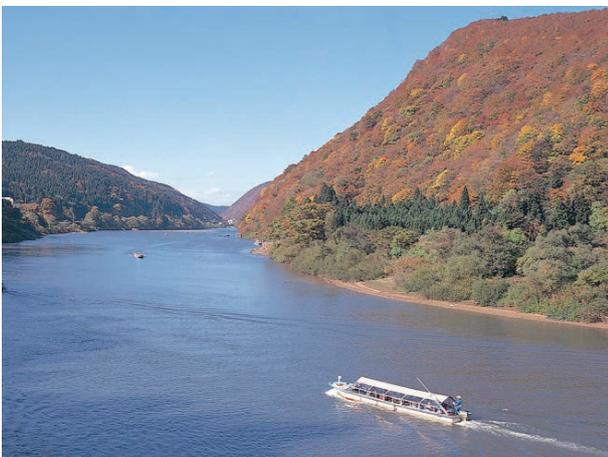
山形県のすがた

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、東京から概ね北に300km、山形新幹線で約2時間30分、飛行機で約1時間の距離にあり、一般には、全国生産量の7割を占める「さくらんぼ」と鮮やかな四季で知られています。

蔵王、月山、鳥海、吾妻、飯豊、朝日と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、南から連なる米沢、山形、新庄の各盆地と庄内平野を「母なる川」、最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。そこでは、人の住む集落、市街地と農地や里山が綾をなし、自然と人間が調和して存在する、「もう一つの日本」が広がっています。

江戸時代、俳聖・松尾芭蕉は「奥の細道」の全行程156日のほぼ三分の一にあたる43日間を山形県で過ごし、その旅は出羽三山を目指した「心の旅」とも言われるように、いにしへの昔から、山形県は精神文化の地とあがめられてきました。

全国第9位の93万haの県土面積は、その地勢や江戸時代の幕藩体制のなごりから、方言や食べ物など、文化も少しずつ異なり、南から、置賜(おきたま)、村山(むらやま)、最上(もがみ)、庄内(しょうない)の4つの地域に大きく区分されています。



最上川舟下り

河川の状況

本県が管理する河川は、一級水系では、最上川、赤川、荒川の3水系495河川、河川延長2,549.8km、二級水系では、月光川、日向川、新井田川等の17水系59河川、河川延長269.7km、総計20水系554河川、河川延長2,819.5kmに及んでいます。このうち要改修延長は1,757.5kmで、昭和21年以降京田川、馬見ヶ崎川、犬川等の中小河川改修事業に着手し、現在は、広域河川改修事業や流域治水対策河川事業等により、延長743.2km、42.3%が整備済みとなっています。

主な河川災害としては、昭和42年8月の羽越水害、昭和50年8月の真室川水害があり、これらの復旧には多大な労力と費用を要しました。

近年の災害と事業実施状況

(1) 県南豪雨災害

近年、局地的な集中豪雨が頻発するなか、県南部に位置する置賜地方の吉野川流域では、平成25年7月に羽越水害以来となる激しい豪雨に見舞われ、南陽市赤湯地区、宮内地区の市街地等において、甚大な被害が発生しました。

この災害を受け、吉野川では災害箇所を復旧するとともに、河川改修による効率的かつ早急な治水安全度の向上を図り、再度災害を防止するため、「河川等災害関連事業」及び「河川災害復旧等関連緊急事業」が採択されました。

しかしながら、翌年の平成26年7月にも前年を上回る豪雨に見舞われ、災害関連事業区間の増破、市街地等における家屋の浸水や農地・道路の冠水など、さらに大きな被害を受けました。また、吉野川流域に隣接する織機川流域でも、南陽市漆山地区において甚大な被害が発生しました。特に山形鉄道フラワー長井線では、織機川を渡河する橋の橋台背面が洗掘を受け、軌道が宙吊りになるなどして、全線復旧まで10日間を要しました。

このようなことから、吉野川では「河川等災害関連事業」及び「河川災害復旧等関連緊急事業」の両事業の計画見直しを行い、平成26年の出水に対応する計画規模で再度採択され、新たに織機川でも「河川等災害関連事業」が採択されました。

<吉野川 河川災害復旧等関連緊急事業>

- ・事業延長：9.0km
- ・事業内容：掘削30万㎡、築堤1.9万㎡、護岸9.8万㎡、橋梁架替・撤去6橋ほか

<吉野川 河川等災害関連事業>

- ・事業延長：1.7km
- ・事業内容：掘削5.9万㎡、護岸1.1万㎡、取水施設1基ほか



妹背橋 河積阻害状況（吉野川）

<織機川 河川等災害関連事業>

- ・事業延長：1.7km
- ・事業内容：掘削2.0万㎡、護岸4.6千㎡、橋梁架替1橋ほか



山形鉄道 橋梁被害状況（織機川）

(2)最上・小国川流水型ダム

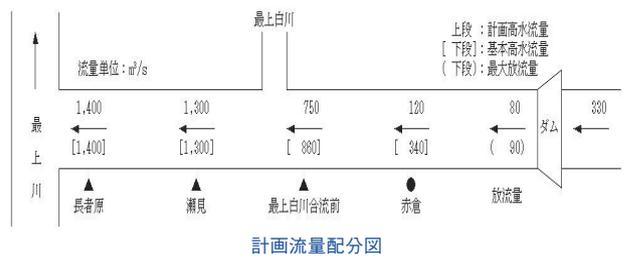
最上川水系最上小国川沿川地域では、急流河川のため古くよりたびたび被害を受けており、昭和49年8月の集中豪雨では浸水家屋339戸、浸水農地716ha、総額14.6億円の被害を受けました。

最近では平成10年9月の台風5号や平成27年9月の出水等たびたび河岸の決壊、はん濫を繰り返しています。また、沿川の中でも特に赤倉温泉地区は両岸に旅館が建ち並び、通常の河道拡幅による治水対策は困難が予想されるため、洪水調節を目的とし、最上町大字富澤地先に最上小国川流水型ダム建設を進めています。流水型ダムは全国では5例目であり、東北地方では初めてのダムとなっています。

ダムの形式は重力式コンクリートダムとなっており、平成26年度より堤体工事に着手し、平成29年度に定礎式を行いました。事業効果発現のため一日も早い竣工を目指して工事を進めています。



最上小国川流水型ダム（完成イメージ図）



<諸元>

○流域面積	37.4 km ²
○総貯水量	2,300 千m ³
○洪水調節量	2,100 千m ³
○調節流量	250 m ³ /s
○形式	重力式コンクリート
○高さ	41.0 m
○堤頂長	143.0 m
○目的	洪水調節

東北地方治水大会の開催

本大会の記念講演では、『「最上川の河川文化」～地理的視点より～』と題し、最上川リバーツーリズムネットワーク代表理事の佐藤五郎様にご講演をいただくこととなっております。最上川の地形と水質の特徴、さらに最先端技術を導入した舟道開削等についてお話しいただきますので、ぜひご聴講ください。

最後になりますが、豊かな自然に恵まれた山形県は、「つや姫」をはじめとする美味しいお米、全国屈指のブランド牛、丹精込めて造られた質の高い県産酒・県産ワイン、そば街道などがある「食彩王国」であります。さらに、35市町村全てに温泉が湧く「温泉王国」、四季折々の果物が実る「果樹王国」でもあります。そして、出羽三山や芭蕉が訪れた山寺等、奥深い歴史や精神文化が各地に根付いております。皆さまのご来県を心からお待ちしております。



出羽三山の精神文化と山形交響楽団との響宴